

名大の授業を体験しよう

「勇気ある知識人」

名古屋大学は、自由闊達な学風の下、人間性と科学の調和的發展を目的とし、
創造的な研究と自発性を重視する教育を実践することによって、
世界屈指の知的成果を生み出すとともに、
論理的思考力と想像力に富んだ勇気ある知識人の育成を目指しています。

→ 「名大の授業」について

このサイトの特徴と使い方、
スタッフ紹介、
ご利用についてのページです。

→ 用語解説

シラバス、コースウェアなど
サイト内のわかりにくい用語を
解説します。

→ 1分間授業紹介&PodCast



担当教員が生で
授業内容とその魅力を
解説します。

→ スタジオチャンネル



2010/08/19UP
名古屋大学の色々な
情報を発信します。

名古屋大学OCW（名大の授業）で 公開されているユニークな授業実践

名古屋大学・教養教育院・教養教育推進室 山里敬也

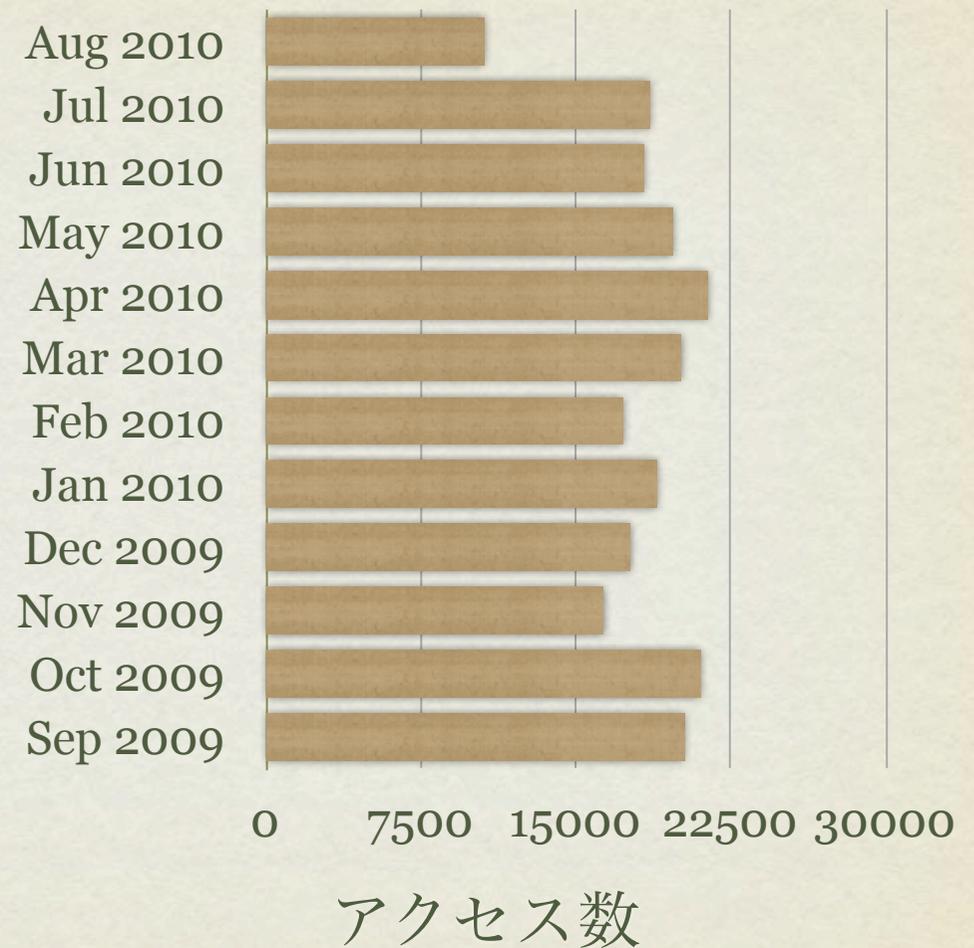
目次

- * 「名大の授業」の概要
- * 基礎セミナー
 - * ボードゲームを究める
 - * オペラの魔力とはなにか
 - * 物理学実験
- * まとめと今後の展開

「名大の授業」の概要

- 2005年12月に公開開始
- 公開講義数

	日本語	英語
授業	98	40
その他	52	0
計	150	40



「名大の授業」の特徴

- ＊ 「名大の授業」というニックネームを採用
- ＊ 部局長推薦と委員会推薦
- ＊ 1分間授業紹介
- ＊ 授業の工夫



TOP
アクセスランキングを月ごとに8位まで集計しています。

用語解説

「シラバス」、'単位'など大学でよく使われる用語の解説文を載せています。

講義資料

実際の授業で使われている講義ノートなどを掲載しています。授業の雰囲気を体験できます。

Topics

サポートスタッフのおすすめする授業、大学の様子がわかる記事などの特集です。



1分間授業紹介 & Podcast

担当教員による授業紹介ビデオです。授業のねらいや「名大の授業」利用者へのメッセージが先生自身の声で語られています。

授業の工夫

先生の思い入れ、教育への熱意が書かれています。大学での学び方を考える上でも活用してください。



授業ホーム

授業のトップページです。担当の先生の写真と名前、講義の目的など授業の概要が書いてあります。

研究科の魅力や授業の特徴、高校生・大学生への部局長からのメッセージをご覧ください。



研究科TOP



TOP

アクセスランキングを月ごとに8位まで集計しています。

用語解説

‘シラバス’、‘単位’など大学でよく使われる用語の解説文を載せています。

講義資料

実際の授業で使われている講義ノートなどを掲載しています。授業の雰囲気を感じることができます。

Topics

サポートスタッフのおすすめする授業、大学の様子がわかる記事などの特集です。

授業の工夫

先生の思い入れ、教育への熱意が書かれています。大学での学び方を考える上でも活用してください。



1分間授業紹介 & Podcast

担当教員による授業紹介ビデオです。授業のねらいや「名大の授業」利用者へのメッセージが先生自身の声で語られています。

授業ホーム

授業のトップページです。担当の先生の写真と名前、講義の目的など授業の概要が書いてあります。

研究科の魅力や授業の特徴、高校生・大学生への部局長からのメッセージをご覧ください。



研究科TOP

基礎セミナー

＊ 初年次教育

＊ 文理融合

＊ 少人数のセミナー形式

＊ ユニークな授業実践を行っている授業多い

● 全教員が数年ごとに担当する全学参加体勢による授業科目

● 学部新生（1年生）に対して開講

● コモン・ベーシックとしての読み（文献調査，考察，検討），書き（まとめ，報告書作成），話す（討論，発表）を中心とした多面的な知的トレーニングを通して，自律的学習能力を育成することを目標としている

ボードゲームを究める

* 授業の設計においては、純粋な娯楽であるボードゲームを使って、いかに多角的にリテラシーの授業として成立させるかがポイントであると思います。受講生がほとんど知識をもたないような外国製ゲームを使うことはよかったですと思っています。なぜなら、ルールを自分で理解し、他人にプレゼンしてわからせ、プレイを通じて戦略を考え、議論する、また、同時に外国の文化的背景も考える、・・・、というように、様々な要素が含まれていますので。

授業ホーム

シラバス

講義資料

開講部局：教養教育院

有田隆也 教授

ボードゲームを究める

授業時間：2005年度後期木曜5限

対象者：文系学部、情報文化学部（自然）、理学部、農学部、工学部(II, IV, III系)

2単位、週1回全15回



■ 授業の内容

この講義は、主にドイツ製のボードゲームやカードゲームを題材として、受講生同士がゲームを紹介しあい遊びながら、考えることの楽しさを味わってもらうことを目的としています。ルールを読み、理解し、仲間に説明し、プレイし（勝ったり負けたりし）、戦略を考え、討論してと、盛りだくさんです。他大学でもごく一部で囲碁、あるいは将棋を題材にした授業を行っているところがありますが、本講義の場合、海外の未知なゲームを扱う場合が多いので、受講生がまったく知識のないところから平等にスタートすることができ、また、外国の文化を楽しむこともできます。ボードゲーム先進国のドイツでは毎年数百の新作が発表され、ゲームのメカニズムは毎年、洗練され、工夫されてきています。テーマ的にも思いつく限りのことをカバーしているといっても過言ではありません。この講義では20種類程度のゲームに親しむだけです。

大きなことをここで少しだけ言わせてもらうと、（特に日本の）現代社会が直面する問題の根底には、人と人のインタラクション（相互作用）に関わる想像力の欠如があるのではないかと以前から考えています（ちなみに、人間関係に限らない様々なインタラクションから創発する現象を計算機を使って調べるのが私の専門です）。ドイツのボードゲームは基本的に人と人とのインタラクションを楽しむものです。プレイすることによって、インタラクションに関わる想像力をトレーニングする効果もあるでしょう。その意味からも、大学生に限らず、もっと広い場面で、ドイツのボードゲームの楽しみを知ってほしいと思っています。

オペラの魔力とは何か

* この授業も「ボードゲームを究める」と同様に**娯楽芸術のひつとであるオペラを題材**にすることで、**基礎セミナーの目標である、読み、書き、調べる、プレゼンする、能力を身につけるだけでなく、外国の文化も学ぶことができる授業**です。とは言うものの、オペラは、今時の学生にとってはなじみの薄いものでしょうから、なお良いのかも知れません。

授業ホーム シラバス 講義資料

開講部局：教養教育院
一宮彪彦 名誉教授
オペラの魔力とは何か

授業時間：2009年度通年前期木曜5限 後期木曜5限
対象者：<前期>
文系学部 情報文化学部（自然） 理学部 農学部 工学部（I・II・III系）
<後期>
文系学部 情報文化学部（自然） 理学部 農学部 工学部（II・III・IV系）



■ 授業の内容

基礎セミナーA(前期開講)と基礎セミナーB(後期開講)は関連するテーマを扱います。

基礎セミナーでは「大学生として自立した学習を行うために必要な、「読む」「書く」「話す」という能力を身につける」ことを目標にしている。この授業では、「オペラの魔力とは何か」をテーマに、文系の学生たちと理系の学生たちが討論や共同での調査をおして、「人は異なる視点を持つ」、「調べる」、「書く」、「読む」、「討論する」、「発表する」能力を身につけ、自立的な学習能力をつける事を目指しています。特に、「人は自分とは異なる意見を持ち、その意見を十分尊重した上で、自分の意見を述べることによって、そこから新しい世界が開ける」ことを実感して欲しいと思っています。また共同で調査し、討論することでチームワークの重要性を学ばせたいと思っています。

オペラは音楽、演劇、舞台芸術などが一体となった総合芸術であり、その内容は歴史や神話をはじめとして、多くの文学作品によるものが多く、人生で遭遇するあらゆることが作品に凝縮されています。この授業では、いくつかの代表的なオペラを取り上げ、その中で展開される人間模様、すなわち「恋」「愛」「喜び」「苦悩」「憎しみ」「嫉妬」「裏切り」「哀しみ」「背徳」など、人間の持つあらゆる感情に基づく行動について考えとともに、音楽と結びつくことによって、それらの感情を強く訴えかけることが出来るのだということを体験して欲しいと思っています。さらに、その体験を通して、オペラとは何なのか考え、またオペラの登場人物の行動から、人間としてのあり方についても考えさせたいと思っています。

オペラとしては、これまで、ヴェルディ作曲「椿姫」「マクベス」、モーツァルト作曲「フィガロの結婚」「ドン・ジョバンニ」、プッチーニ作曲「ラ・ボエーム」「トスカ」、チャイコフスキー作曲「エフゲニー・オネーギン」、ビゼー作曲「カルメン」、ヨハン・シュトラウス作曲「こらもつ」、オフエンバック作曲「美しきエレナ」などを取り上げてきました。これらのオペラについて、4人一組のグループで、調査・討論し、その結果をまとめさせて、パワーポイントにより発表させるとともに、その内容をレポートにまとめさせます。また、その結果に基づいて、全体での討論を行っています。

物理学実験

授業ホーム

シラバス

講義資料

開講部局：教養教育院

千代 勝実 講師

物理学実験

授業時間：2008年度前期月曜3、4限

対象者：医学部

1.5単位、週1回全15回



* この授業がユニークな点は、授業で使う実験器具の使い方、また実験を行う上での注意点などをまとめたビデオ教材を、授業の始まる前までに閲覧するように学生に課している点です。

■ 本授業の目的およびねらい

今日の医療技術では、放射線、電子計測器、高磁場、超伝導など、物理的な技術や測定の知識がますます重要になっている。本授業ではこのような物理の教養を、実際の物理現象を観察し、様々な物理量を測定し、背景にある法則を理解することによって習得する。この中には、基本的な物理測定の方法と原理、実験の技術などを習得することが含まれる。さらに、演習を通して測定データの記録と処理、表現の方法についても学ぶ。

■ 授業の工夫

多くの学生諸君は、中学・高校生の時に物理や化学の実験を実際に自分で行う機会がなかったもので、大学での物理学実験では、大きな期待と不安があるでしょう。名古屋大学では、それぞれの専門分野に合わせて、学生諸君が特に興味を持てる内容や日常の身近な内容、高校までに習った内容について、実験技術の習得や理論との比較だけでなく、今後のキャリアで役に立っていく実践的な教養としての物理学実験教材を提供しています。積極的に予習を行い、その実験テーマの関連事項や発展的な内容について勉強しておく、より意義のある実習となるでしょう。

まとめと今後の展開

- 基礎セミナーでは、童心に返って学生と一緒に楽しんでやっている授業も多数あります。
- 体系化された学問に根ざした授業も重要ですが、学生と共に楽しみながら真理を探究することの面白さを伝えていく、すなわち研究の楽しみを伝える授業も重要かと思われれます。
- そのような観点でカリキュラムも見直していくことも、今後必要になってくるように思います。